

# 令和元年度 第2回学校運営協議会

- 1 日時 令和元年11月13日(水)10:00~12:00
- 2 場所 大阪府立泉南支援学校 会議室
- 3 次第

## (1) 開会 校長あいさつ

学習発表会に向けての準備の真っ最中。このところ支援学校に対する信頼を揺るがすようなことがメディアで取り沙汰されているが、各学校も教員の体罰防止や人権意識の向上について今一度省みなければならない。本日の会議では、地域からの信頼に応えられるよう議員の方から参考となるような意見をいただきたい。また、防災の観点からも地域と連携をしていきたい。

## (2) 学校運営協議会委員紹介

## (3) 事務局員紹介

## (4) 協議及び報告

### 【報告1】

#### ○各学部の児童生徒のようす

#### 小学部

59人の児童が在籍している。1年生は新しい学校、新しい友だち、新しい先生など、環境が劇的に変わるが、その環境に徐々に慣れていけるように学習に取り組んでいる。児童はもちろんのこと保護者の不安も多いため、その不安を少しでも取り除いていけるようにしていく。給食のこと、排泄のこと、次の日の準備物等細かいことでも尋ねてくれる。こうした時、通学バスのバス停で出会う先輩のお母さんがキーパーソンになる。先輩のお母さんとのやりとりが安心できるひとつの材料になる。年々児童数が増加しているが、開校当初からの「全教員で全児童を見ていけるように」を基本に取り組んでいきたい。現在は12月に行われる学習発表会に向けて学習に取り組んでいる。児童の実態に合わせて教員が絵本を作製して興味を持てるようにするなど、子どもの「やりたい」という気持ちを育てている。

#### 中学部

1年は4クラス、2年は2クラス、3年は3クラス。今後人数は増加傾向にある。家庭での問題行動がある生徒もいるために指導を考えていかなければならない。

#### 高等部

社会人に向けて自分でできることを増やす学部である。高1が4クラス、高2が4クラス、高3が5クラス、全部で93人の生徒が在籍。2学期は校外清掃に取り組んだ。高1は俵池公園、高2は正門前の歩道、高3は北門前の歩道の清掃を行うことで、地域の方に自分たちの存在をアピールすることができた。また今年度は、国際理解の取り組みも積極的に行っている。アメリカやフィリピンの方から英語を学んだり、各国の遊びを教えてもらったりした。また、今年度は狂言師の方にも来校いただき伝統芸能に触れる貴重な機会をつくることができた。現在は学習発表会の取り組みと並行してマラソンの練習に取り組んでいる。各行事で生徒の成長を感じることができる。

#### ○居住地校交流の取組について

「交流及び共同学習」の取り組みの一環として行っている。小学1年生から6年間継続し交流している児童もいる。交流校の教員からは、まとめの際に「君たちが大人になった時に、町で困っている友だちがいたら今回の経験を生かしてほしい」という言葉があった。高学年になるにつれて発達の差が大きくなることもあるため、双方にとってよい学びとなるために、交流の方法は考えていかなければならない。中学部では支援学級との交流やクラブ活動での交流を行っている。

#### ○令和元年度卒業予定者の進路状況について

卒業予定者は34人。今年度は、職業訓練校の受験や学びの作業所など、例年に比べ幅広い進路先を希望する者が多い。校区内に多数の作業所があるため、市町をまたいで進路先を考える人も増えている。

【協議】 年間協議テーマ『地域と連携・協働した取組について』  
今回の協議題『各所属施設（団体）における防災対策と地域との関わりについて』

校長：「かならずいつか起きる災害に備えて」というテーマで、本校のPTA会長とともに近畿の支援学校PTA協議会で発表する予定。校内での防災対策はPTAと協力して避難訓練の実施やPTA備蓄品試食会等を実施。昨年9月の台風21号の際は本校も4日間停電した。グラウンドの倉庫が壊れたり、木々が倒れたりなどの被害も受けた。停電が続いたことで、電話が繋がらず外部との連絡が取れなくなった。通学バスで使用している携帯電話や、各教員の携帯電話を使い保護者と連絡をとった。この経験から連絡手段の確保、災害備蓄食料の確保等が必要性をひしひしと感じた。

小田会長：各議員の所属先での防災について順にお聞きしたい。

油田委員：3～4年前に福祉避難所に指定された。常時150人くらいの施設利用者がいるため、衣食の提供は難しいかもしれないが、住に関してはある程度の役割を果たすことができる。周辺の地域には高齢者が多いため、地域との協力というよりは地域のために対応していかなければならない場合も多い。昨年の台風21号の際には近隣の老人ホームと連携しておむつや飲料水などの物資のやりとりを行った。

青木委員：地区内には牧野区民センターがあり、災害時に市から要請があれば開放する可能性はある。地域のネットワークとしては消防団があるが、災害時に迅速に対応するのは難しい状況である。

和田委員：施設自体は避難所指定をうけてないが、市職員であるため避難所が開設された場合は、職員が配属される。避難訓練を毎年1回、あらゆるケースを想定して行っている。全ての職員が様々な役割を経験できるようにしている。備蓄食料に関してもアレルギー対応が必要な子どもも多いため確保しにくいのが現状である。欠席者だけでなく出席している人がわかる出席表を作成している。昨年の台風21号で停電になった時は、職員の携帯電話から非通知設定で保護者に連絡をおこなった。市のメール配信サービスを利用して連絡を取るため、保護者に登録をお願いしている。

藤田委員：行政区が広いので、法人として防犯・防災委員会を立ち上げて法人全体で備蓄品を購入した。9月5日の「大阪880万人訓練」の日にあわせて避難訓練を行った。職員も被災者になる可能性もあるため、地域の方と協力し合える関係を作れたら。

平松委員：旧大阪市立の支援学校は避難所になっている場所もあるときいている。避難所になった場合は市内の人を受け入れるが、本校は泉佐野市から岬町まで幅広い校区域があるため避難所としたときどうするのか。PTAとしても連絡網などは作成しておらず、いざというときにどのように対応するのか検討していきたい。学校から携帯電話に配信できるマチコミメールの登録を促すようにしている。学校の備蓄食料にはご飯があるので、児童生徒個人の備蓄食料の中に、ご飯が食べやすくなるようなおかずを入れるように話しを進めているところ。

小田会長：阪神淡路大震災のときも東日本大震災のときも熊本地震のときも障がい者が避難所に避難することが難しかった。違う環境でパニックになったり、保護者の方が懸念したりなど被災した人でも車中で過ごした方も多くいた。地域の中で安心して避難するためには、どのようにしていくのか？本校の児童生徒だけではなく地域の障がい者の方の避難等も含めて地域と連携していくことが課題となるのではないかと。

【報告2】

- ・令和元年度学校経営計画進捗状況について
- ・令和2年度採択教科書について
- ・令和元年度学校評価アンケートについて
- ・いじめに関するアンケートの集計結果について

(5) 閉会 校長あいさつ

充実した協議内容となった。防災の対応は引き続き考えていかなければならない。また、本校の児童生徒を地域の方々に知っていただき活躍できる場面を作っていきたい。